

鎌倉楽しむ会

歌川広重が
今に伝える景勝の地

金沢文庫駅から

金沢八景駅へ



(スタート) 京浜急行金沢文庫駅

平成28年9月28日



● 金沢北条の祖・北条実時が自邸内に開いた武家の書庫・金沢文庫の跡地に建つ博物館。称名寺に伝わる書籍・古文書・絵画・彫刻・工芸品を中心に、国宝・重文を含む資料を収蔵・公開している。今回、称名寺聖教 16692点、金沢文庫文書 4149 通は、鎌倉時代～南北朝時代の政治・外交・宗教・文化の第一級の資料と評価され国宝に指定される。

北条実時



● 実時の父・実泰は2代執権・北条義時の五男。実時は元仁元年(1224)に生まれる。父が若くして幕政から引退した後を受け、わずか11歳で小侍所別当の要職に就く。3代執権の北条泰時は特に4代執権北条経時の相談相手に

なるよう指導されたといえます。5代執権北条時頼の時には有力な側近として活躍し、8代執権北条時宗の補佐として、元寇による蒙古襲来の中、鎌倉幕府の重要な地位を占めていた。

● 建治元年(1275)政務を引退し、出家して所領の六浦荘の地に蔵書を集めて金沢文庫を創設します。それを、子の顕時が引き継ぎ、孫の貞顕によって完成されました。

称名寺



● 上記の画像は仁王門です。称名寺の山号は、金沢山です。真言律宗、別格本山。金沢北条氏の菩提寺。北条実時が六浦荘の居館内に阿弥陀三尊を祀った持仏堂から発展したものという。開山は、下野薬師寺から曹海上人を迎えた。

称名寺の弥勒菩薩立像



● 神奈川県立金沢文庫内に展示されている「本尊弥勒菩薩立像」(重文のしプリカ)です。複製された極彩色の素晴らしい仏像です。普段は称名寺の金堂の中におさめられて拝顔ができませんがありがたいことです。

運慶作の大威徳明王坐像



● 平成10年(1998)に収蔵されている「大威徳明王坐像」の内部から制作当時の納入文書が見つかり、その記述

から源実朝の養育係・大式局の発願により、そこに建保4年(1216)に運慶が制作した旨の記載があったということです。この坐像は、高さが21cmの小さな像です。大威徳明王は、悪魔をにらみつける恐ろしい顔をした明王で、6面6臂6足をそなえ、水牛の背にまたがる姿ですが、この運慶の坐像は、破損は甚だしく、6本ある腕のほとんど、6足のすべてが失われています。

国指定史跡 称名寺境内



● 平泉の毛越寺を模して造られたという浄土式庭園です。この庭園は、2代顕時と3代貞顕の時を経て作庭されたと見られる。
● 境内は、国指定史跡になっており、その面積は約2万8千坪と広大なものです。

● 元享3年(1323)の「称名寺絵図」では七堂伽藍を備え壮麗な寺観を伝えている。特に南の仁王門から池を東西に分けて反橋、中島、平橋をわたり金堂に至る形式は、平安中期以降盛んに築造された浄土式庭園の最後の遺例として貴重とされる。

● 元弘3年(1333)北条氏滅亡後は、後醍醐天皇や鎌倉公方、豊臣秀吉、徳川家康らの時の権力者の庇護を受けたが、寺運は回復せず、江戸期には大きく衰退した。近年の昭和53年(1978)から10ヶ年にわたって整備が行われた。

称名寺 釈迦堂



● 金堂の側に建つ釈迦堂です。宝形造茅葺。文久2年(1862)建立。本尊は徳治3年(1308)造立された釈迦如来(重文)です。京都・清凉寺の釈迦如来立像(三国伝来の釈迦如来)を模刻したもので、いわゆる清凉寺式釈迦如来立像です。現在は金沢文庫に寄託しています。

称名寺の梵鐘



● 称名寺の梵鐘は「称名の晩鐘」として、「金沢八景」の一つに数えられる名鐘。北条実時が文永6年(1269)に鑄造させた鐘が地震により壊れたため、正安3年(1301)北条顯時によって改鑄されたものである。鎌倉時代を代表する物部国光と依光の鑄造とされている。

横浜シーサイドライン



● 画像は「横浜シーサイドライン」です。平成元年7月5日の開業で、JR根岸線接続の「新杉田駅」～京浜急行接続「金沢八景駅」までの14駅を運航しています。5両編成・日中は7～8分間隔で、「横浜八景パラダイス」も途中駅にあります。

海の公園



● 横浜で唯一の海水浴場。潮干狩りも、バーベキューも。全長11kmに渡って広がる人工の砂浜です。ここでは自然のあさりなどが育ち、「潮干狩り」のシーズンには大勢の人で賑わいます。夏には海水浴ができ、遠浅で波も静かなので、小さいお子様連れ

の家族にも安心して楽しむことができるということです。トイレも数か所整備され、砂浜の後方には緑地帯が広がっているため、海と空と緑の景色を楽しみながらのんびりと過ごすことができます。また、ウインドサーフィンを楽しんだり、バーベキュー場では、海という開放的なロケーションで人気があり、気軽にアウトドアクッキングが楽しめることでしょう。

● お天気ならお弁当を持参して食べるのも楽しいことです。

旧伊藤博文公金沢別邸



● 旧伊藤博文公金沢別邸の変遷。明治31年(1898)伊藤博文公が別邸を建築する。明治36年(1903)皇太子殿下が訪れる。大正5年(1916)大正天皇陛下行幸。昭和17年(1942)民間会社の保養所として利用される。

昭和34年(1959)横浜市の所有となる。平成18年横浜市指定有形文化財となる。

● 伊藤博文公について。天保12年(1841)周防国で生まれる。安政4年(1857)松下村塾に入る。文久3年(1863)イギリスへ密留学する。明治4年(1871)岩倉具視の使節団に随行し欧米各地を歴訪する。明治18年(1885)初代内閣総理大臣となる。明治20年(1887)憲法起草を開始する。明治22年(1889)大日本帝国憲法が公布される。

野島公園展望台



● 展望台は海拔57m。眼下には隣接する海の公園や八景島が広がり、晴れた日には遠く丹沢、富士の山並みや、房総半島を望むことができ、平瀬湾の夕照は昔と変わらない美しさを楽しむことができるということです。

憲法草創之碑



● 明治20年(1887)伊藤博文を中心に井上毅、伊東巳代治、金子堅太郎の4名が、料亭の東屋で明治憲法の草案を練った場所に建てた記念碑。

琵琶島神社



● 源頼朝の妻・北条政子が、琵琶湖の竹生島弁財天を勧請し、平瀬湾に島を築き創建したと伝わり、島の形が楽器の琵琶にそっくりなことに由来するという。音楽芸能、立身出世、千客万来の神として信仰されている。

瀬戸神社



● 画像は、小泉純一郎内閣総理大臣の揮毫した扁額です。

● 治承4年(1180)源頼朝が挙兵の際に伊豆三島明神を勧請し建立された。金沢北条氏からも崇敬され、徳川家康も参拝したという。金沢八景の「瀬戸の秋月」で知られ、交通安全、旅行安全にご利益があるという。

広重の描いた『金沢八景』

- 江戸時代、歌川広重の名所絵にも登場するほどの景勝地であった、六浦を中心とする金沢八景。広重が当時描いた風景も、現在はわずかに面影を残すにとどまっている。

称名の晩鐘



（しょうみょうのばんしょう） 称名寺から聞こえてくる鐘の音の情景は、現存する八景のうちのひとつ。

洲崎の晴嵐



（すさきのせいらん） 洲崎の松並木が風に揺れている様子。江戸時代中頃まで鎌倉街道は松並木だった。

小泉の夜雨



（こずみのやう） 金沢文庫駅の南を流れる宮川上流から、手子神社（小泉弁財天）付近の夜の雨の絵。

乙船の帰帆



（おっとものきはん） 一帯の海岸線が、船の「とも」の形をしていることから「おっとも」と呼ばれた。

野島の夕照



（のじまのせきしょう） 現在の野島橋付近の漁村の景色。もともと野島は陸続きの島だった。

平潟の落雁



（ひらかたのらくがん） 平潟湾に雁が飛来する様子が描かれた。浅瀬が多く、今も昔の地形が残っている

内川の暮雪



（うちかわのぼせつ） 内川橋、瀬ヶ崎方面を描いた雪景色といわれている。

瀬戸の秋月



（せとのしゅうげつ） 昔、瀬戸橋付近からは、月に照らされた平潟湾と野島を望むことができたという。

神奈川県横浜市金沢区海の公園 付近



1 : 13,500 相当

地図上の1センチは 約 135 メートル
印刷中心は 東経 139度38分 2秒 北緯 35度20分 8秒

北条家略系図

① 数字は執権の就任順

